

技術士 2次試験に合格して



中尾 博己
(なかお ひろみ)

勤務先

一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構

総務・経理部門

〒040-0051 函館市弁天町 20 番 5 号

TEL 0138-21-4700 FAX 0138-21-4601

E-mail h.nakao@marine-hakodate.jp

■ 専門：水産部門(漁業及び増養殖)

1. 自己紹介

私は、1951年(昭和26年)に山口県宇部市で生まれ、高校を卒業するまでは瀬戸内海に面する宇部市で、魚釣りを楽しみながら過ごしました。その後、クラーク博士の「青年よ大志を抱け」という校風にあこがれて北海道大学に進学し、水産を学びました。

始めは電子に興味があったのですが、高校2年生の時、いつものように海に釣りに行くと、今まで見たことのない赤茶けた色の海(赤潮)が目飛び込み、「今まで青く美しかった海が何てことだ。」と大きなショックを受け、水産に関心を持ち始めました。

北海道に来てから、もう47年が経ち、すっかり北海道人の66才になります。今回、ひょっとすると最高齢の受験生ではなかったのではないかと思います。

2. 技術士試験について

私が初めて技術士試験を知ったのは、道職員として根室に勤務していた30年前のことです。福岡で橋梁の設計をしている高校の親友が訪ねて来た時、友人から、これから技術士の受験をする、水産部門もあるから一緒に受けてみないかと誘われたのです。「何それ?」と色々教わりましたが、当時、業務上有効な資格は農林水産大臣が認定する「水産業専門技術員資格」でしたし、これを取得するため勉強中でしたので、特に考えるようなことはありませんでした。

その後、予定通り専門技術員として水産試験場で専門分野の調査研究や普及所の指導に携わりましたが、対外には道職員の専門職程度に見られており、資格への認識は関係者までと限定的でした。

これまで業務を遂行するに当たり、一貫して取り組んできた思いは「科学する漁業者の育成と漁民の福祉に寄与する。」ことでした。道職員退職後もこのような活動を継続的に行い、広く、公に認知や信用

を得るには技術士が役に立つと考え、受験することにしました。

定年退職の2年前に一次試験を受験し、定年の年に二次試験を受けましたが、不合格。漁協に再就職してからも独学で挑戦を続けましたが、平均評価Bの連続でした。知識・記述にはいくらか自信があったのですが受かりません。これは何かあるなど感じ、今の職場に移ってから勉強会に参加しました。

そこで、私の解答方法に問題があることが分かり、勉強会2年目の今年、やっと合格を手にすることが出来ました。勉強会(北海技塾)のお陰と感謝しています。独学だと、同じ繰り返しをしていたのではないかと思います。

不備の原因は、課題の抽出と解決方法の整理です。トートロジーに陥らないようにすることが重要です。

面接は、緊張したものの大変スムーズで、笑いも出る状況でした。色々な海域で、様々な経験をしているので、問題なく自分の考えをしっかりと述べる事が出来ました。経験の浅い若い方々には難しい問題が出されるかもしれませんが、何故、問題になったのかをイメージし、考えると、答えを見つけやすくなると思います。

3. 今後について

面接の際に聞かれました。「何故もっと早く受けなかったのですか? これからの資格の生かし方は?」

答えました。「道職員の時とは特に必要性を感じませんでした。退職後は、広く知られる公的資格を持つことにより、信用や安心を提供でき、円滑な人づくりや海づくりが出来るようになります。」と。

これからも、情報収集や自己研鑽に励み、海の応援団として一生頑張る所存です。 押忍